8月3日 海洋教育研究会（オンライン） スライド原稿（案） ※最大10分間

スライド1	姫路市立坊勢中学校です。宜しくお願いします。本校の海洋教育の単元設定の工夫と海洋教育の普及への取り組みを紹介します。
スライド2	はじめに、坊勢中学校は、兵庫県・瀬戸内海（播磨灘）の小さな離島（坊勢島）にある生徒数62名の小さな中学校校です。保護者は、漁業や海運業などに多く従事しています。
スライド3	瀬戸内海という恵まれた漁場があり、豊かな水産資源の恩恵を受けています。写真は、坊勢漁業協同組合がブランド化をすすめている海産物の例です。
スライド4	満点☆青空レストランや相席食堂など、全国区のテレビの撮影ロケも度々行われています。
スライド5	では、本題に移ります。海洋教育における単元設定をするにあたり、次の6項目を意識しました。{スライドを見ながら説明}
スライド6	まず、各教科書の内容や学校行事を紐づけていくと、次に示す関連が見えてきました。
スライド7	次に海洋教育に関する先行実践の事例を調べました。参考資料は、まず海洋教育政策研究所の『21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン』です。これは、小学校編・中学校編・高校編の3編あり、他校種を見ても、参考になります. これは海洋政策研究所のホームページで誰でも見ることができまし、一度は見ておられることと思います。
スライド8	その中に書かれている「海洋教育のコンセプトマップ」です。海に親しむ・知る・守る・利用する。4つのどれに、各活動が当てはまるかを意識しました。
スライド9	同じく「海洋教育12分野」からは、新しい単元内容を見つけるキーワードを見つけることもできました。
スライド10	一般書籍として、新学習指導要領時代の海洋教育スタイルブックを参考にしました。
スライド11	次に「海洋における海の学びガイドブック」も紹介します。教科の実践例などが参考になりました。
スライド12	これ以外にも、生徒用にSDGsや海洋ゴミ等の海洋に関する関連書籍を図書室や各教室に、随時増やしています。
スライド13	最後に海洋政策研究所発行のOCEAN NEWSLETTER のバックナンバーも、少し難しいですが、教師自身の見識を高めるには貴重な資料でした。
スライド 14	先行実践や海洋に関するニュース等は、インターネットで手に入れることができます。海と日本プロジェクトなどの Youtube チャンネルで他の海洋教育の実践を見ています。
スライド 15	次に、兵庫・瀬戸内海の情報を調べる中で、兵庫県・姫路市には海洋教育に協力可能な施設や事業が色々あることを知りました。一部はコロナ化で受け入れ中止もあります。
スライド 16	その中で3つを紹介します。1つ目は、兵庫県農林水産局と坊勢漁業協同組合の協賛事業「漁業体験プログラム」です。瀬戸内海の漁業の話と体験見学船で底引き網漁の見学をします。水揚げされた魚介類の選別作業中には望ましくないレジ袋の漂流ゴミなども確認ができました。通常約11万円かかるものですが、学校負担はありません。
スライド 17	本年度の漁業体験のようすは、神戸新聞の記事にもなりました。

スライド 18	2つ目は、兵庫県立家島しぜん体験センターです。坊勢島と同じ家島諸島にあります。
スライド 19	学校の自然学校や子どもキャンプ等でも利用され、海と山のプログラムが充実しています。本校1年生は、緊急事態宣言の影響により、日帰り学習となりましたが、先ほど紹介の漁業体験の後に、魚を捌いて焼く野外炊事、海洋訓練カヤック、漂着ゴミ・ビーチコーミング、MP調査等を行い、オール海洋教育の1日を過ごしました。
スライド 20	3つ目は、兵庫県漁業協同組合によるお魚出前教室です。これに加えて、2学期には、坊勢漁業協同組合による地域の魚を使った坊勢お魚講習会も予定しています。
スライド 21	別途、1年生は1学期だけで、魚を捌く体験を既に3回行い、魚を渡せば、黙って3枚卸しに取り組めます。私の理科の解剖と併せて、小型のアジやイカだけでなく、60cmサイズのブリやサワラ、鯛などで行わせました。
スライド 22	学校行事との関連づけも意識しています。坊勢中学校では、島内の海水浴場の清掃やペットボトルキャップ収集、マイクロプラスチック調査活動などの活動実践に対して、過去には「兵庫県グリーンスクール表彰校」にも選ばれました。また、令和元年にはマイクロプラスチック調査（報告）を、日本学生科学兵庫県コンクールにも出展しました。
スライド 23	それらの教科書、先行実践、県内の施設や事業、従来の学校の取り組み等を集約し、年間計画（案）を作りました。結構多いようですが、教科の中で軽く扱うものも含まれます。今年度については、昨年度のコロナ渦で中止した活動も、2・3年生で取り組ませたいため、かなり埋まっています。すでに4割近くは終わりました。
スライド 24	1学期に行った実践例です。どれも、材料と時間、地域との関連があれば、実践可能です。2学期以降は、海の水質調査、海洋エネルギー、地域の特産品作り（干しガレイ、板海苔作り）などを行います。
スライド 25	コロナ渦中の活動は、教職員、保護者、地域のご協力とご理解がなくては成立しない活動も多いため、各活動終了後に、担当教師がまとめ、「海洋教育通信・豊かな海に生きる」として、生徒・保護者・教職員に発行をしています。
スライド26	大まかには、このような流れで作成しています。（スライドを提示） かなり余裕をもって作っています。
スライド27	**※海洋教育通信を掲示！**
スライド28	また、本通信は、1か月分をまとめ、教育委員会や地域の施設などにお渡しし、本校の活動を知ってもらう取り組みをしています。
スライド29	とにかく取り扱いたいアイデアは色々あり、どれだけ地域と関連性があるかが採用基準と考えています。配慮事項としては、瀬戸内海の海ゴミでやり玉にあがるカキパイプや魚網等は漁業に欠かせないし、河川からの流入ゴミは不要ですが、里山から供給される栄養は海に必要であることなど、決して「誰か」を批判して終わることがないようにしないといけません。
スライド 30	来年度に、コロナ渦が収まって入れば、11月頃に広島県に平和学習で校外学習に行きます。海洋教育に関する実践が絡められるといいなぁと調べています。
スライド 31	「教科書に書いてある事だけじゃ分からない、島だからこそできる海洋教育の大切さ」や「当たり前に感じる坊勢島の豊かさ（宝）」を考えることになればと願い、楽しく発行しています。 **以上で発表を終わります。**